

ロガーの役割

証明

究明

予知

1. **異常が無いことをデータで証明する。**
2. **原因究明の裏付データ**を提供する。
3. データの変化や傾向で**予知保全を実現する。**

この役割を果たすロガーに求められる必要条件

- | | |
|-------------------------------|------|
| 1. データが 確実に記録 されること | 確実 |
| 2. ロガーによる 業務負荷が増えない こと | 簡単 |
| 3. ロガーの 導入コストが小さい こと | 低コスト |

1. ロガーの具体的な使用目的

1. **単純に、簡単・手軽に記録のできる温度計・湿度計が欲しい**
手書き記録作業の自動化を実現（測定ミス・記載漏れ・記載ミス・記載コストの削減）
2. **研究開発・品質保証・検証実験用**に、信頼性の高いデータが欲しい
課題解決用の裏付けデータが必要な時に
3. **リスク管理・予知保全用**に、変化点や傾向性が分かるデータが欲し
安全に対する自己防衛手段として、および保守メンテナンス費用の最適化手段として
4. **危機管理・風評被害対策用**に、まず最低限のデータは担保したい
「何か、データはあるの？」と言われた時に
5. **ブランド戦略・差別化戦略用**に、温度の管理体制をアピールしたい
品質第一のイメージが、企業価値を高める時に
6. **法規制対応・顧客要求**に応えるために、データの完全性を確保したい
業務が正しいことをベリフィケーション（立証）するために

2. ロガーの選び方

目的

環境

性能

1. まず、導入目的によって絞り込む

- 導入目的として、リアルタイムな監視機能や制御機能が必須か

2. 次に、使用環境・設置場所によって絞り込む

- 国際物流・移動体据付・冷凍・冷蔵・チルド・汚染・防水

3. 最後に、性能・機能・使いやすさ・価格によって絞り込む

- 測定データの精度や収集方法・電池の種類・操作性・堅牢性・価格

3. リアルタイム型ロガーを選択する場合の注意点

リアルタイム型ロガー
の導入目的は

リアルタイムに集まるビッグデータを見える化し、
AIによって判定し、即時対応できる最適制御の実現

従って、リアルタイム型ロガーを選択する場合、

⇒ 異常検知後のフィードバック制御が機能して、初めてビジネス価値が生まれます。

IoTによる「見える化」までの段階は、

⇒ あくまでも「手段」であって、それ自体は「目的」ではありません。

無線タイプロガー特有の選択時に知っておくべき内容

- ウェイクアップ機能の有無 ■ ロングレンジ運用（データインテグリティ保証）
- 電池寿命オペレーション ■ 電波法認証 ■ 危険物非対象電池 ■ 航空機搭載認証
- サイバー攻撃の対処 ■ 非通信時のリカバリー処理

※ウェイクアップ機能=スリープ状態で受信できること ※ロングレンジ=通信距離が1m以上あること
※データインテグリティ=データの完全性（元のままのデータ） ※危険物非対象電池=コイン電池

開発・製造元

株式会社藤田電機製作所

〒259-0124 神奈川県中部二宮町山西945番地
TEL:0463-71-0651

販売店

商品についてのお問合せは、〒259-1132 神奈川県伊勢原市桜台2-28-1
TEL 0463-95-1221(代) FAX 0463-95-1225
株式会社藤田電機製作所 営業部まで

商品についての詳細は、ウォッチロガーのホームページ

<http://f-log.jp>



から、ご確認願います。